

「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第7回

1. 実施日

令和3年7月10日（土）1、2限

2. 場所

化学講義室 A-1～A-5、B-1～B-5（41名）

生物講義室 C-1～C-5、D-1～D-5（38名）

3. 対象

グローバル科2年生（6・7組）

4. 講師

大阪大学 全学教育推進機構

講師 柿澤寿信先生（化学講義室） 准教授 堀一成先生（生物講義室）

5. 内容

講義及びワークショップ 「よい研究発表とはどのようなものか？」

- (1) 本日の目的と進め方
- (2) よく見かける研究発表のパターン
- (3) よい研究発表の条件
 - ①研究目的が明確であること
 - ②思考に分析（分けること）と論理（つなげること）が含まれていること
 - ③的をしぼった調査ができていること
- (4) 明確な研究目的とは
 - ①「主題」・「トピック」・「仮説」
 - 「主題」…漠然とした大きな関心領域
 - 「トピック」…具体的に特定された研究対象
 - 「仮説」…トピックに関する「因果」あるいは「比較」を含む予想
 - ②トピックの5要件（研究する意義があるか 研究する本人が興味を持てるか 本人の力量で扱いきれるか 必要な情報が集められそうか 内容に新しさがあるか）
 - ③「主題」・「トピック」・「仮説」を考える
- (5) 分析的思考／論理的思考とは
 - ①定義 分析とは「分ける」こと 論理とは「つなげる」こと
 - ②「分ける」考え方 仮説設定に関して
 - ③「つなげる」考え方 議論の筋道 根拠づけ 論点抽出 ピラミッド構造
- (6) 的をしぼった調査とは
 - ①何をすべきか ②論点の明確化 ③情報の取捨選択

6. 学び

①研究目的が明確であること ②思考に分析と論理が含まれていること ③的をしぼった調査ができていること 以上3点がよい研究発表の条件であることを理解し、自分たちの課題研究を進める。

7. 次回への課題

今回学んだよい研究発表の条件を理解したうえで、次回以降、取り組むべき課題の明確化を図り、夏休み課題である「調査シート②」を作成する。

8. 本時の振り返り

研究の進め方を本格的に教えていただき、生徒はこれからの探究活動の見通しを持つことができた。また、分析的思考・論理的思考という枠組は、探究活動に留まらず、これからのキャリアにおける全ての学びに通用する考え方であり、様々な場面で応用してくれることを願っている。